

## 第4回下水汚泥有効利用勉強会を開催しました

滋賀県では、順次更新時期が訪れる汚泥処理施設について、職員の知見を深め、更新時の参考とするため、汚泥有効利用についての新技術を勉強する場として、令和3年度から職員向けの勉強会を開催しています。

令和5年7月20日(木)に第4回勉強会を開催しましたので概要を報告します。

第4回勉強会は、全国でも先進的に汚泥の有効利用に取り組まれている神戸市東灘処理場の見学会を実施し、下水道課、南部・北部流域下水道事務所等から約20名が参加しました。

まず、神戸市の職員の方から、東灘処理場の概要をはじめ、バイオガスの利用や消化汚泥からリン回収を行い、肥料として活用するKOBEハーベストプロジェクトの取り組み等をご講義いただきました。

その後、神戸下水道の歩み館を見学し、こうべ再生リンや水・インフラ整備に関する国際貢献の取り組みについて実物の再生リンやパネル等により学びました。

処理場見学では、バイオガス精製設備やこうべバイオガスステーション、リン回収設備等を見学しました。

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、配管の破損や機械・電気設備の水没等壊滅的な被害を受け、処理場のそばにある運河を仮処理施設として使用する等の対策により、迅速な対応を実施されたお話をいただきました。

汚泥の有効利用だけでなく、処理水の活用や災害時の対応等、普段の業務に参考となるお話を伺うことができました。

引き続き現場見学や講演等を通して、職員の知見を深めていきたいと考えています。



講義の様様



見学の様子（バイオガス精製設備）